

米国 ガソリン価格の上昇等により消費者マインド低下

(2007年4月ミシガン大学消費者センチメント)

2007年4月13日 (金)

～消費の拡大ペース鈍化を示唆するも調査期間が短く現時点での影響は限定的～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : sei.ji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		消費者信頼感 (Consumer Confidence)						ミシガン大学消費マインド			
	期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状		
			充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅				
06/05	104.7	85.1	134.1	29.1	20.2	16.5	12.9	6.3	2.9	79.1	68.2	96.1
06/06	105.4	87.5	132.2	28.0	20.0	16.8	11.9	5.5	3.2	84.9	72.0	105.0
06/07	107.0	88.9	134.2	28.6	19.6	16.1	10.9	6.9	3.8	84.7	72.5	103.5
06/08	100.2	84.4	123.9	24.5	21.1	16.2	12.9	6.9	3.8	82.0	68.0	103.8
06/09	105.9	91.0	128.3	26.2	20.9	16.5	10.3	6.0	2.9	85.4	78.2	96.6
06/10	105.1	91.9	125.1	25.6	21.8	18.5	10.0	6.2	3.1	93.6	84.8	107.3
06/11	105.3	91.9	125.4	25.7	22.1	16.0	8.5	5.2	3.2	92.1	83.2	106.0
06/12	110.0	96.3	130.5	27.6	21.3	16.7	7.8	5.4	2.9	91.7	81.2	108.1
07/01	110.2	94.4	133.9	29.6	19.7	16.3	8.0	6.3	3.3	96.9	87.6	111.3
07/02	111.2	93.8	137.1	27.8	17.9	15.9	8.2	5.5	3.4	91.3	81.5	106.7
07/03	107.2	86.9	137.6	30.5	19.1	14.5	9.8	5.2	3.2	88.4	78.7	103.5
07/04										85.3	74.3	102.4

(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

3.1 ポイント低下

2007年4月のミシガン大学消費者センチメント指数(速報値)は、85.3と前月から低下し市場予想の87.5を下回った。調査期間が短く今後株高等により上方改定される可能性があるものの、確定値でさらに低下すると同時に3月まで高い水準を維持しているCBベースの消費者信頼感指数が大幅に低下すれば消費の拡大ペースは鈍化する可能性がある。なお、マインド調査期間と同時期(4月第1週)の消費動向を示す統計をみると、週間チェーンストア売上高はイースターの休日が今年は昨年よりも8日早かったため押し上げられた部分もあるが、4月第1週に3月対比+1.3%と3月の前月比+1.0%から加速している。

マインドの内訳は、現状指数が102.4と前月比▲1.1ポイント悪化し、期待指数が74.3と前月から▲4.4ポイントの低下となった。現状判断は良好な雇用・所得環境にもかかわらず、ガソリン価格の上昇によって悪化したと考えられる。期待指数は原油価格の上昇、一部の経済指標の悪化等によって景気の先行きに対する楽観的な見方が後退したとみられる。

他の4月の調査でもマインドは低下

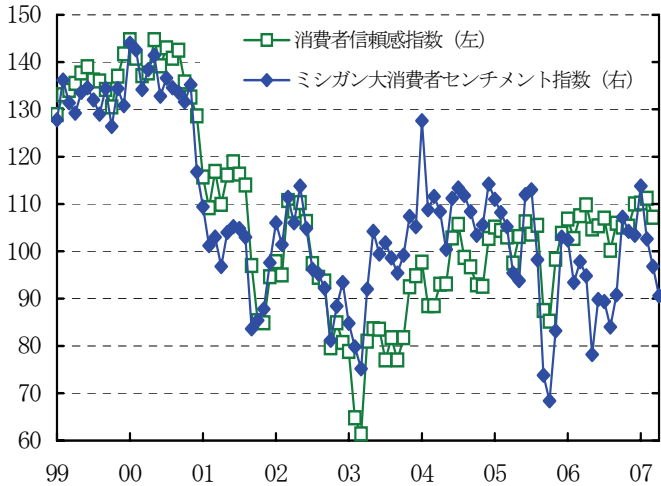
他の4月の消費者マインド調査でも、ABC/リットンポト消費者信頼感指数が4月第1週に▲7.0と3月平均の▲2.5から悪化した。TIPP景気楽観指数も45.5(3月50.8)と低下するなど、各種マインド調査は4月第1週に消費者マインドが悪化したことを示している。

今後マインドの大幅な悪化は回避される
公算

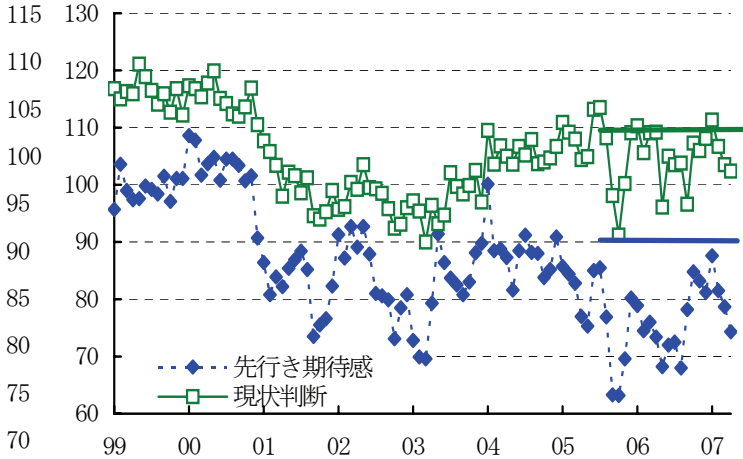
エネルギー関連では、原油価格はガソリン価格の上昇、先進国での原油在庫の大幅な減少からWT I が1バレル=60ドル前半で推移している。今後、中国が戦略備蓄を拡大するなど需要の強い状態が続くとみられるもと、供給の大幅な拡大が見込み難く1バレル=60ドル前後の水準を維持すると予想される。ガソリン価格は米国での需要期に向けて当面上昇を続けよう。一方、ヒーティングオイル、天然ガスは需要期が終わっており安定した推移が予想される。

目先ガソリン価格の上昇がマインドの押し下げ要因となるものの、雇用・所得の増加、株価の上昇が続くと予想されることから、マインドの大幅な悪化は避けられよう。

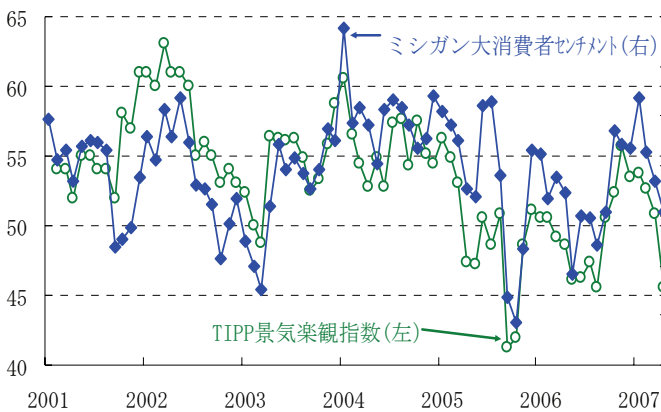
消費者マインドの動向



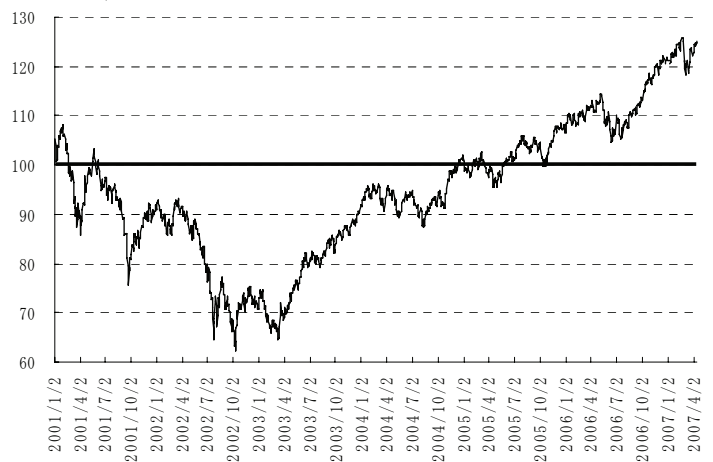
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



消費者マインドの推移



(01年1月2日=100) ウィルシャー-5000の推移 (2001年1月2日～2007年4月13日)



(ト/＄/バレル)

WT I 先物 (期近物) の推移



(出所) NYMEX

天然ガス (NY) の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。